

平成30年度 感染症危機管理研修会
<風疹に関する Epi Labo コラボ企画>
10月17日 13:30 - 13:45

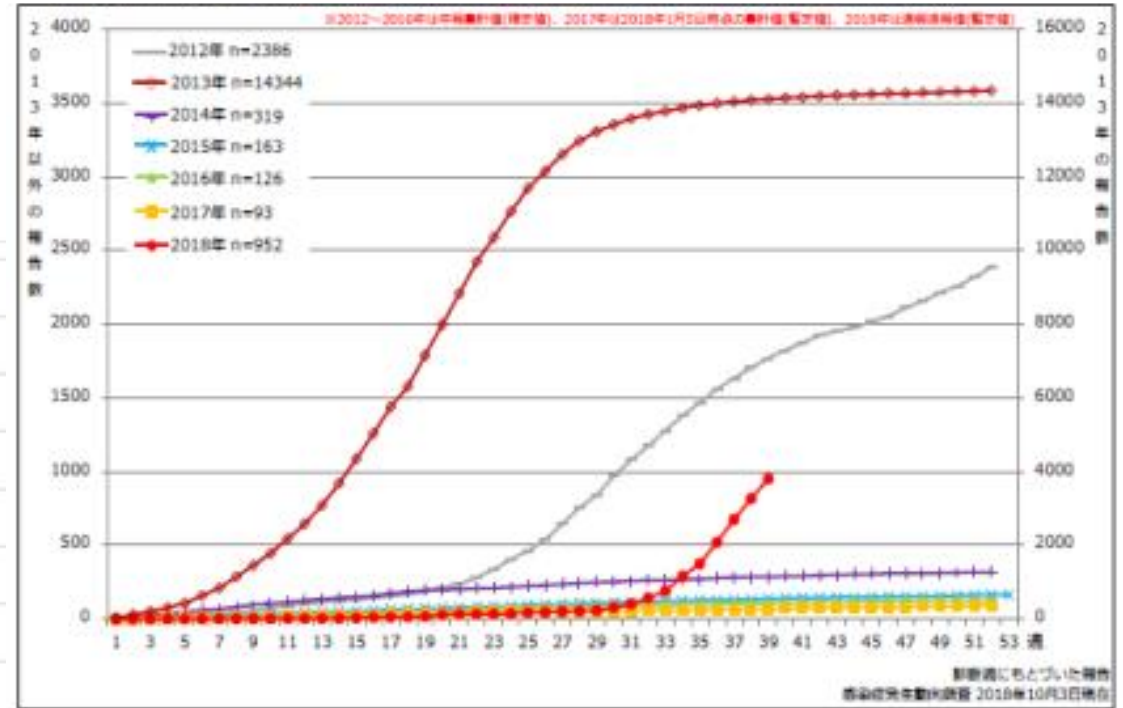
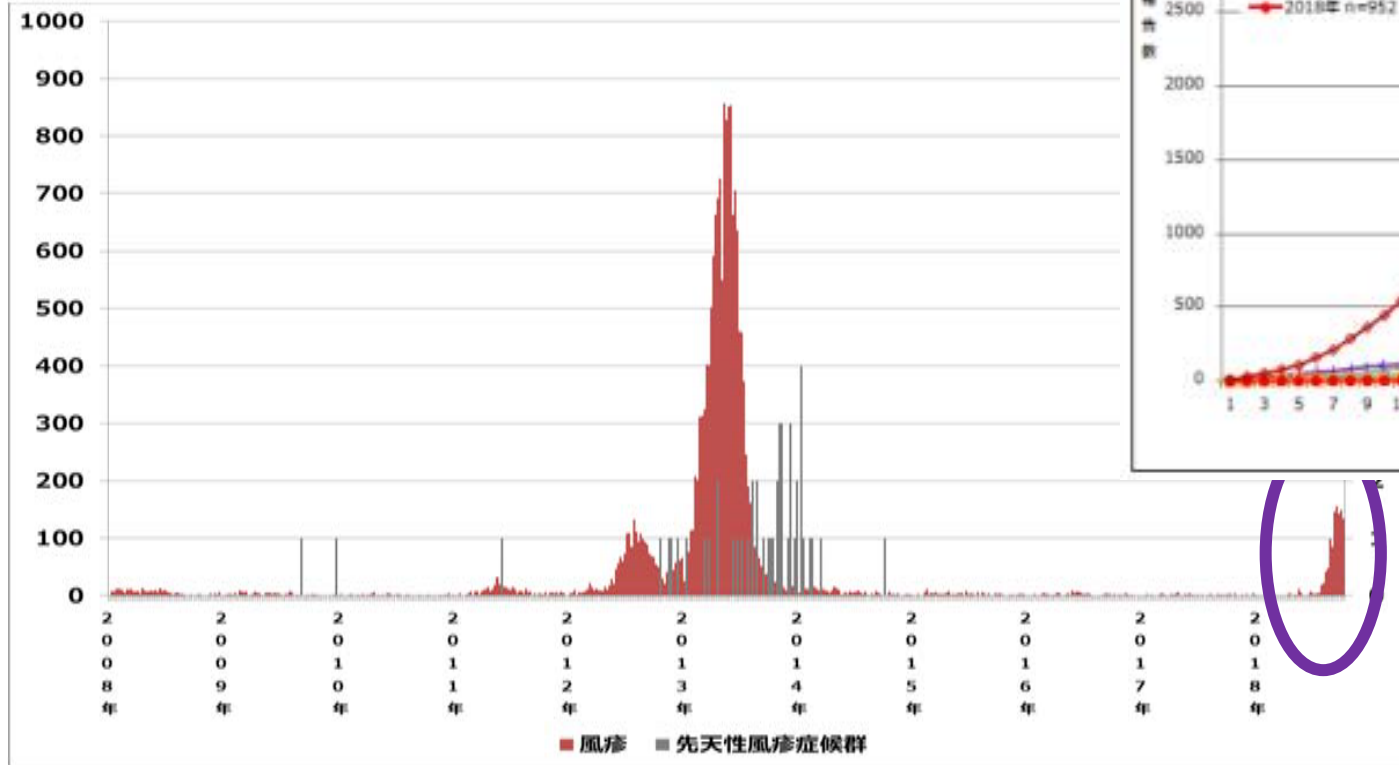
風疹の発生動向と 発生時対応について

国立感染症研究所感染症疫学センター
神谷 元



風疹・先天性風疹症候群の報告数(2008~2018年10月)

風疹患者報告数(人)



年
(人)

なぜ麻疹風疹混合ワクチン（MRワクチン）を用いて風疹も予防するのでしょうか？

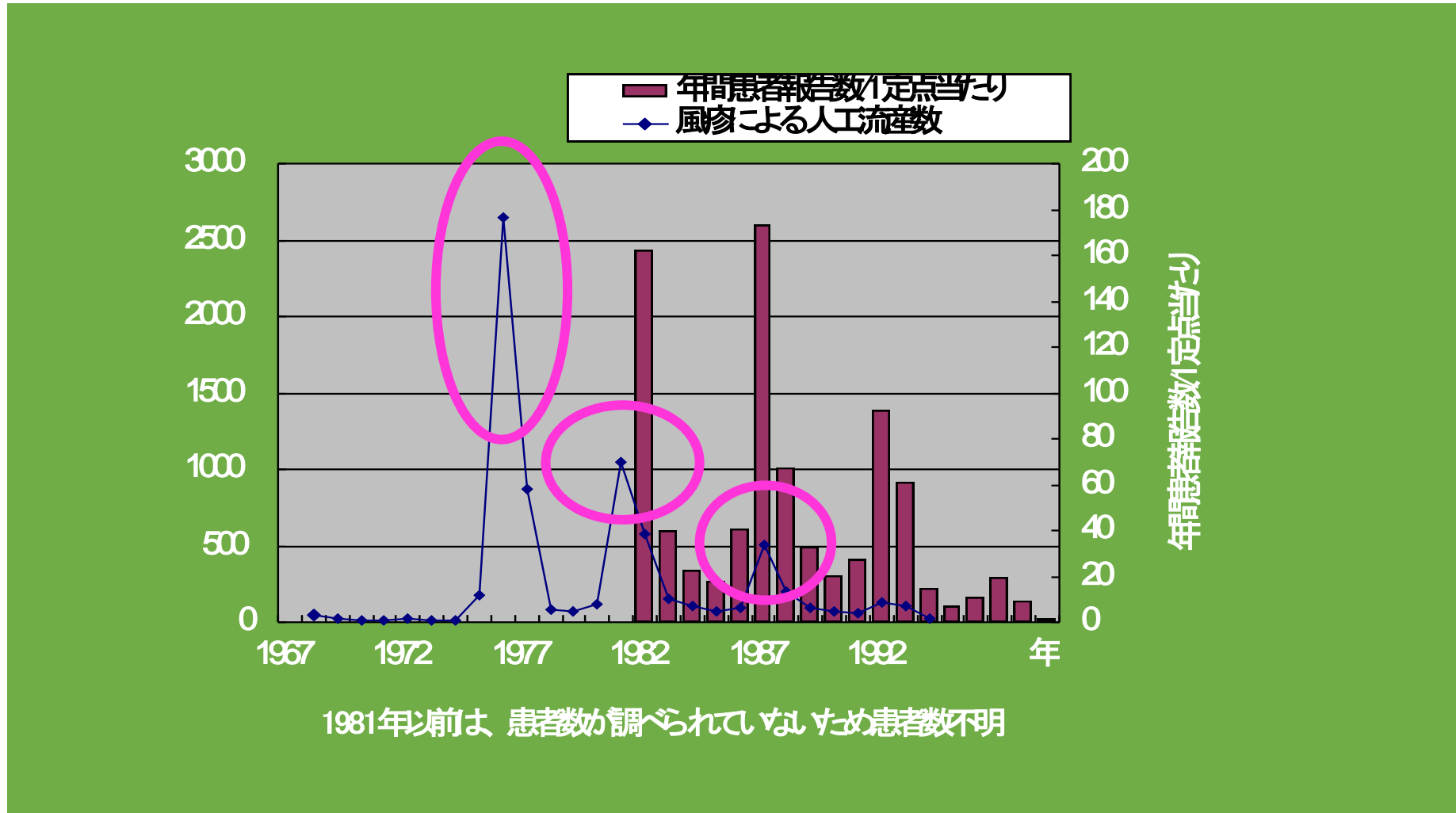
- 風疹：不顕性感染が15～30%（～50%）程度。多くは症状の程度は軽い
- 血小板減少性紫斑病、脳炎等の合併症が報告されている。
- **妊娠20週頃までに妊婦が風疹に罹患すると先天性風疹症候群（CRS）の児を出産する可能性が高い。**



先天性風疹症候群（CRS）：

- 妊娠20週頃までの妊婦が風疹ウイルスに感染し、風疹ウイルスが胎児に感染して先天異常を生じる場合。
- 主症状：先天性心疾患、難聴、白内障

過去には、風疹が流行すると、先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれることを恐れて、人工流産が増えるということが起きました。



背景：風しんに関する特定感染症予防指針（風しん予防指針）の改正

風しん予防指針

2014.4.1～2017.12.31適用

改正された風しん予防指針

2018.1.1～適用

クラスター確認時の
積極的疫学調査

1例からの
積極的疫学調査

患者

医師

届出7日以内

直ちに届出

衛生研究所
PCR 検査

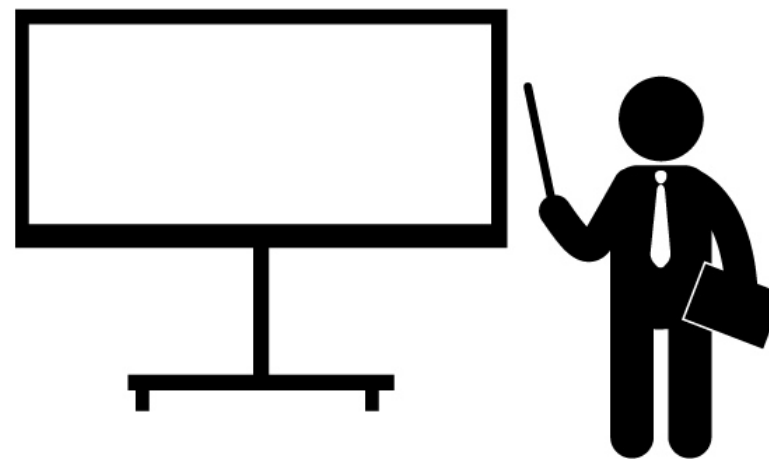
保健所（都道府県知事）

衛生研究所
PCR 検査

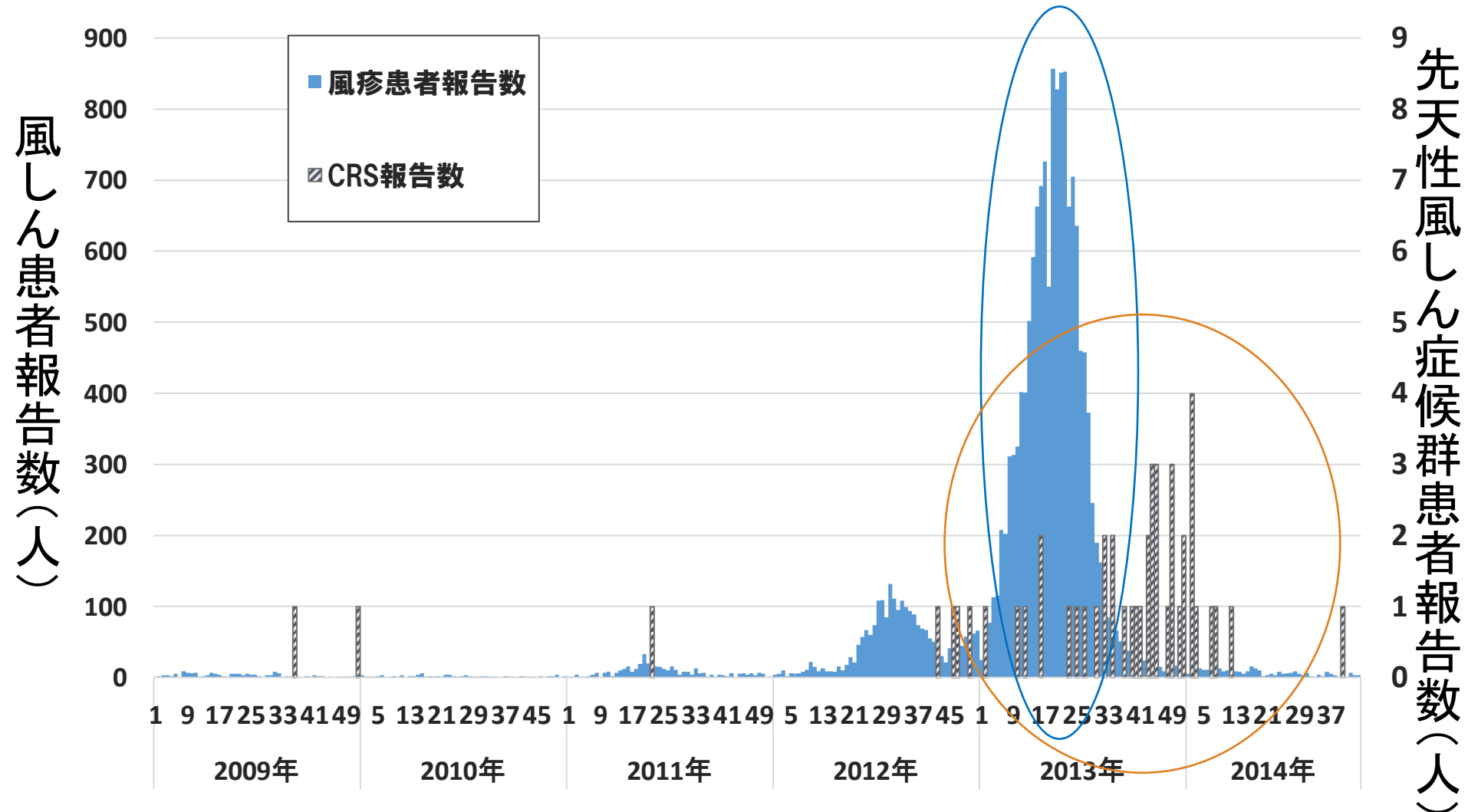
クラスター確認時に必要
時PCR検査を実施

原則全例PCR検査の実施

過去から学ぶ



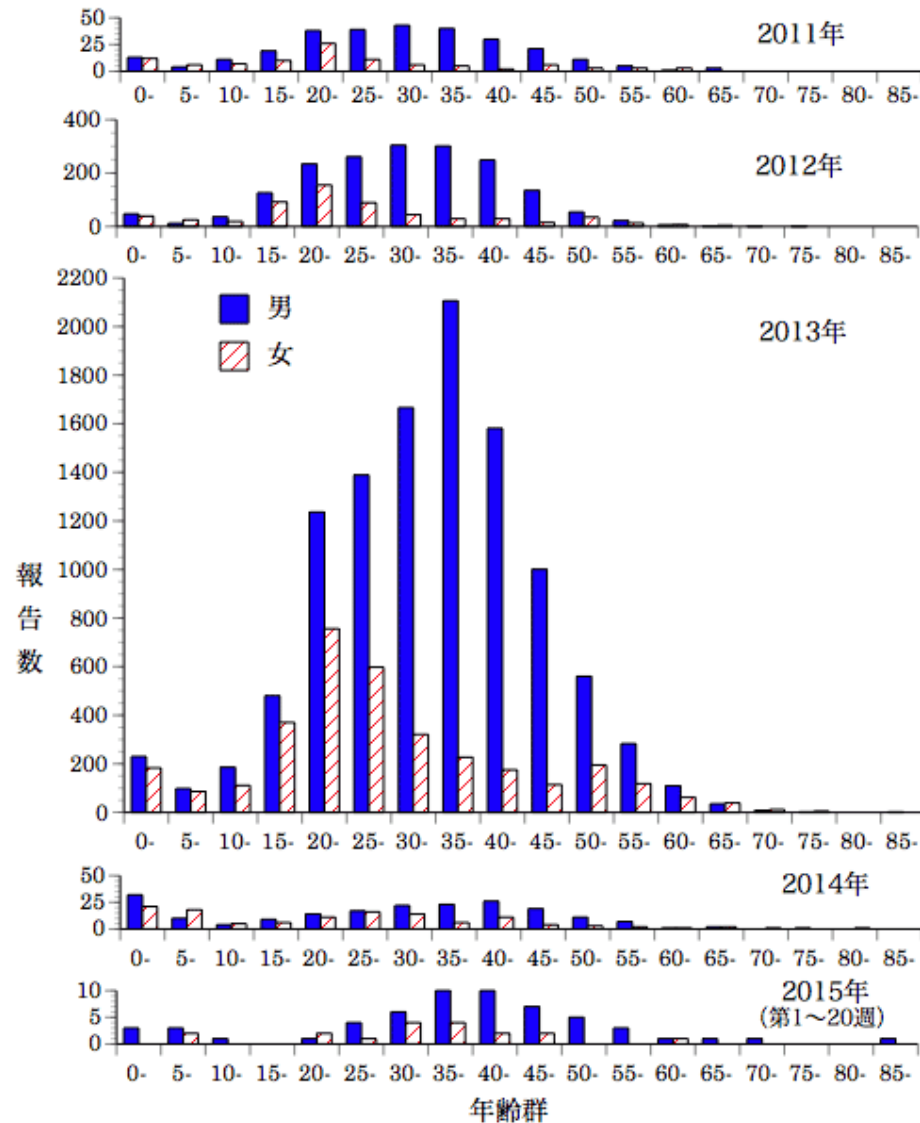
風しん・先天性風しん症候群の報告数(2009～2014年第44週)



(感染症発生動向調査より)

年毎の風しん患者の年代分布（2011-2015年第20週）

図3. 風疹患者の性別年齢分布, 2011~2015年

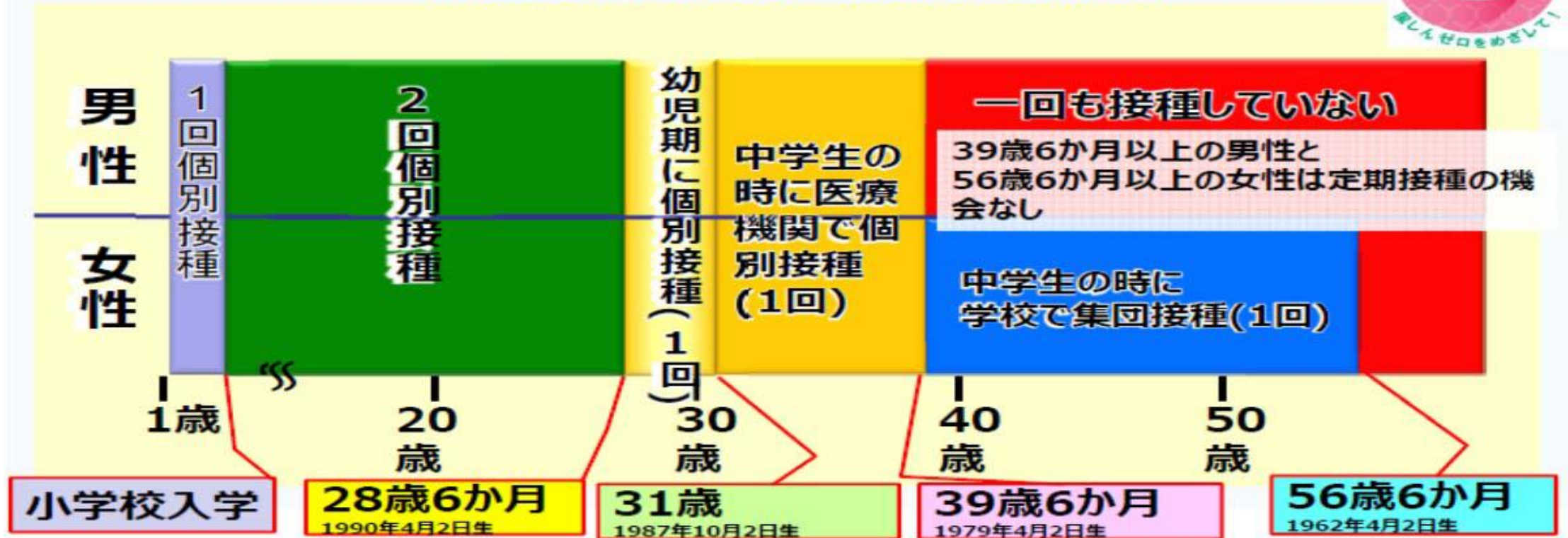


(感染症発生動向調査：2015年5月21日現在報告数)

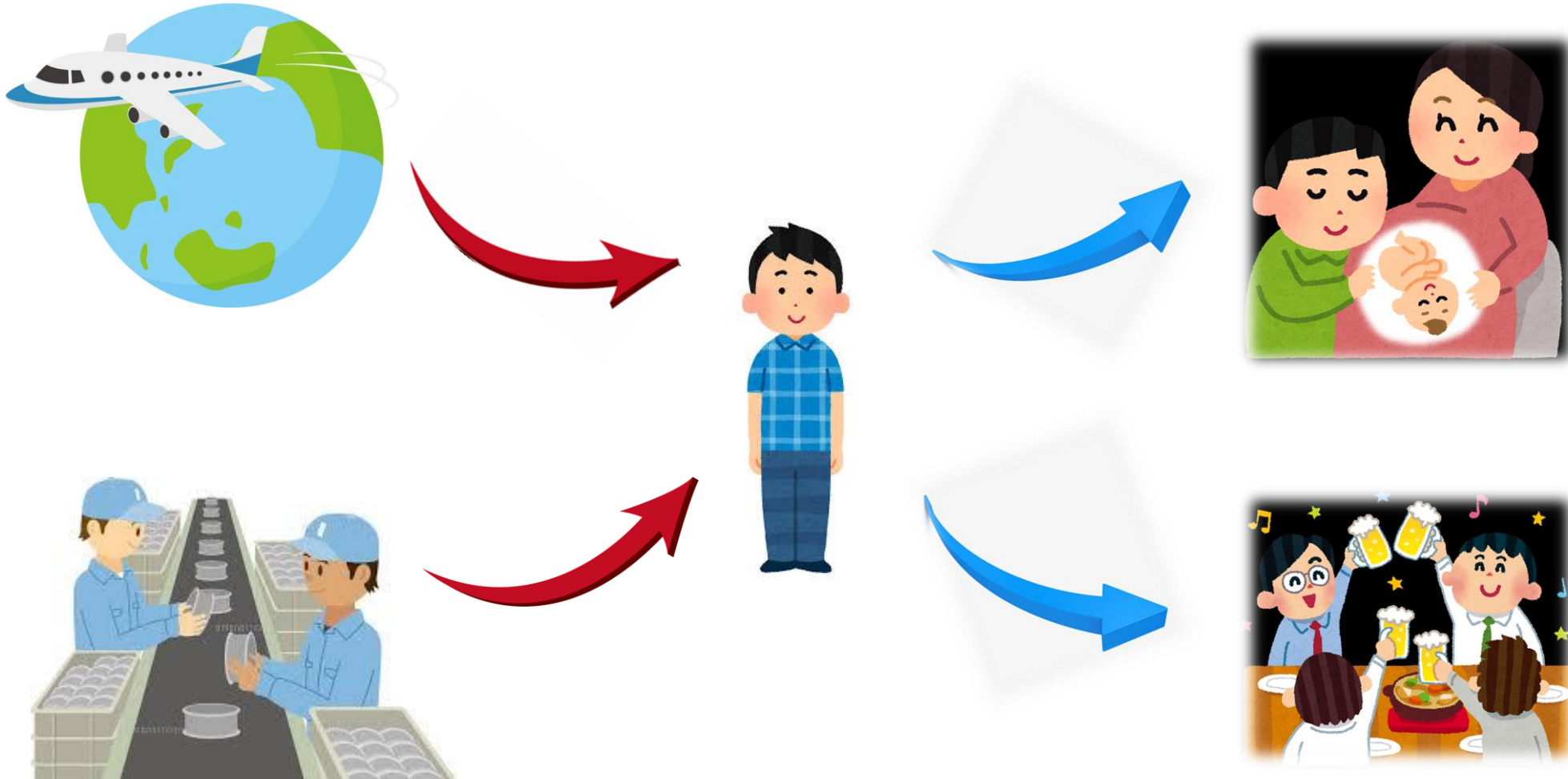
2015年を含め、
大流行の2013年
以外の年も全て
成人男性が多い
パターンは同じ
↓
感受性者は成人
男性に多い

これまでの国内の風疹ワクチン定期接種者対象者

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
(平成30(2018)年10月1日時点)

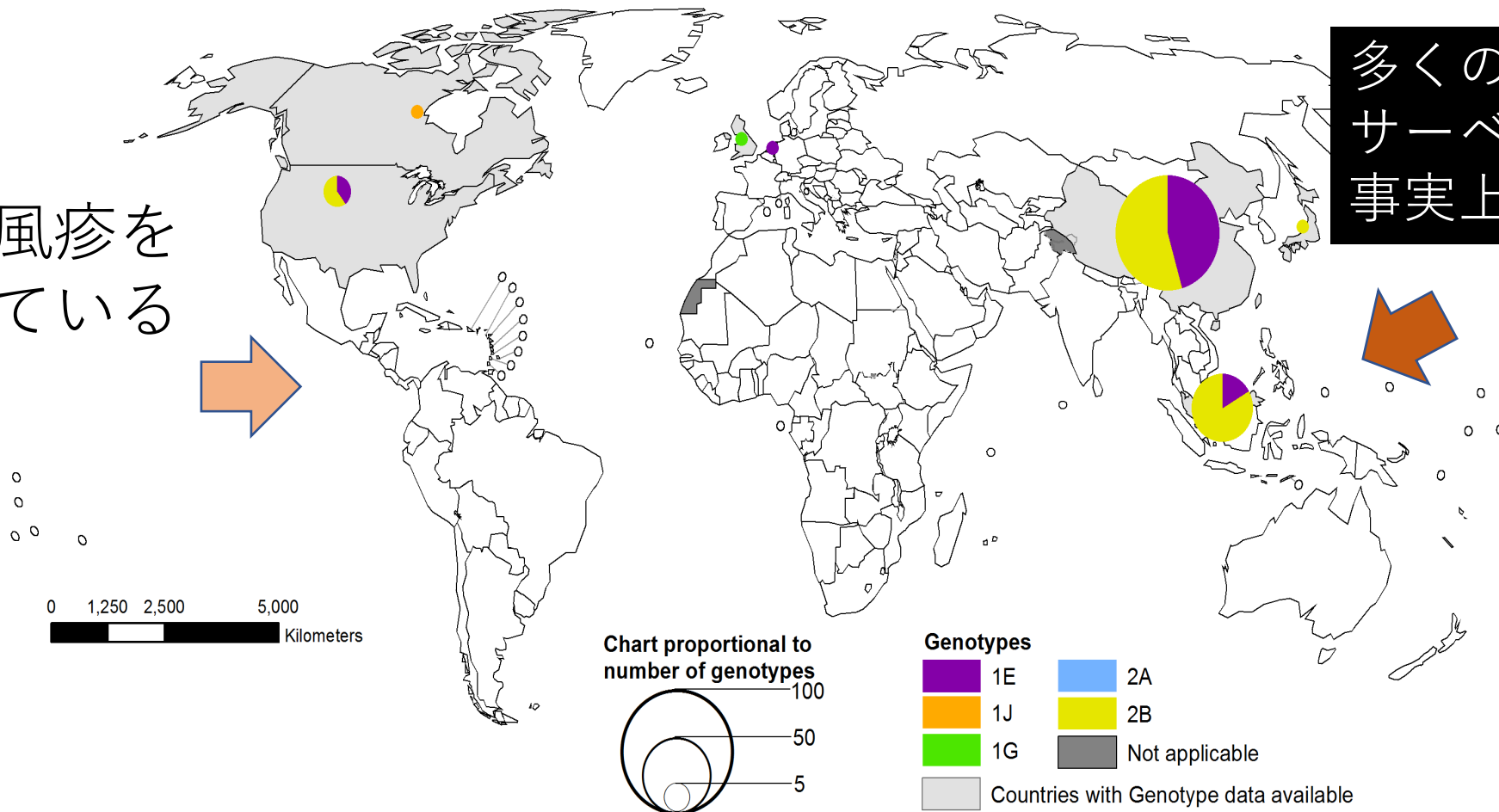
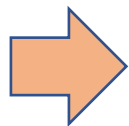


成人男性の風疹抗体保有率が低いと何が問題なのでしょう？

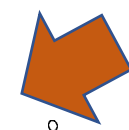


海外の風疹ウイルス遺伝子型報告状況（2014年1月～12月）

実際に風疹を
排除している

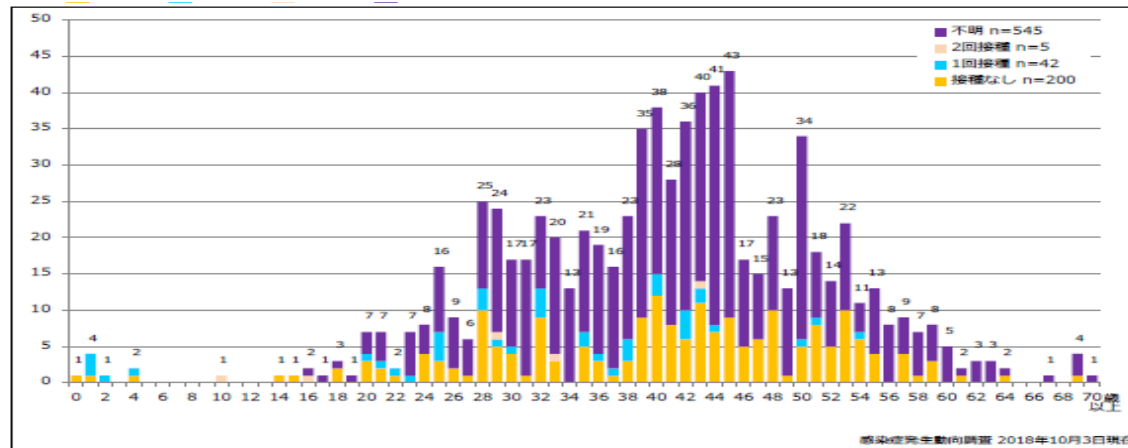


多くの国で風疹の
サーベイランスが
事実上機能していない

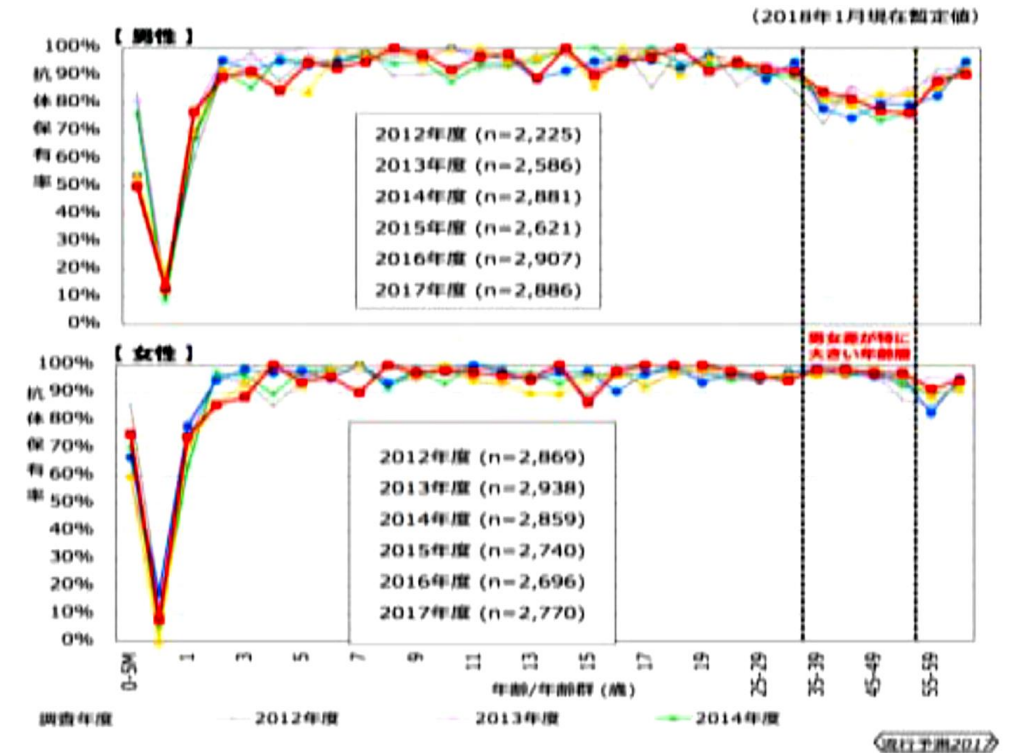
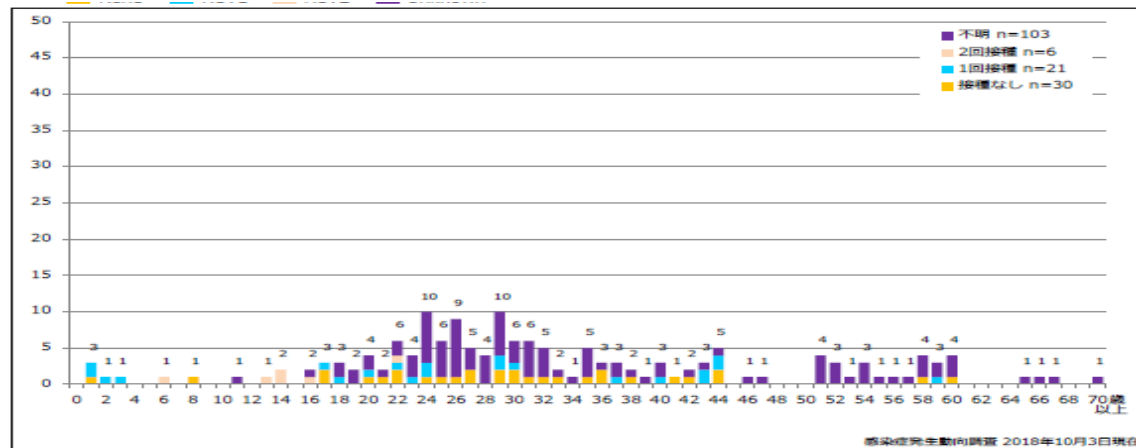


2018年の性別風疹患者報告数（左）と 2017年度性別風疹抗体保有状況（右）

男性
792名



女性
160名



「自治体における風疹発生時対応ガイドライン」

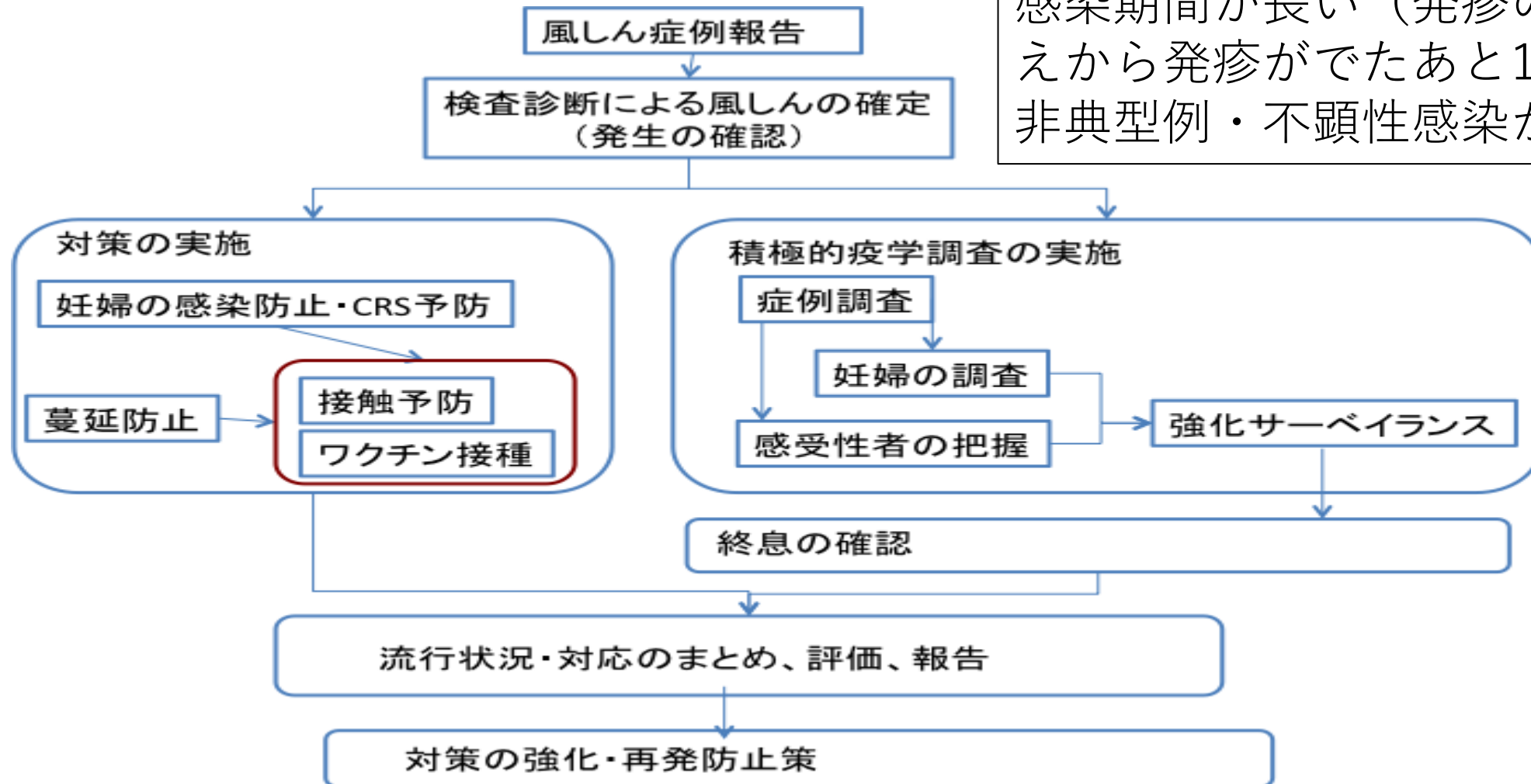
〔第二版〕 2018年8月31日掲載

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/rubella_gl_180831.pdf

- 平時の対策実施の重要性
 - 地域のワクチン予防接種率の把握
 - 地域の妊婦、風疹感染ハイリスク群の把握と啓発・教育活動
 - 国内外の流行地域の把握
 - 関係機関との協力関係の構築並びに情報交換
- 患者発生時の対応
 - 1例ごとに対応（麻疹と同様）
 - 広域事例の場合の対策会議の早期実施
 - 保健所・地衛研のキャパを上回る患者数となった場合は柔軟に対応
- 妊婦の感染による先天性風疹症候群発生の防止

風疹患者発生時の対応

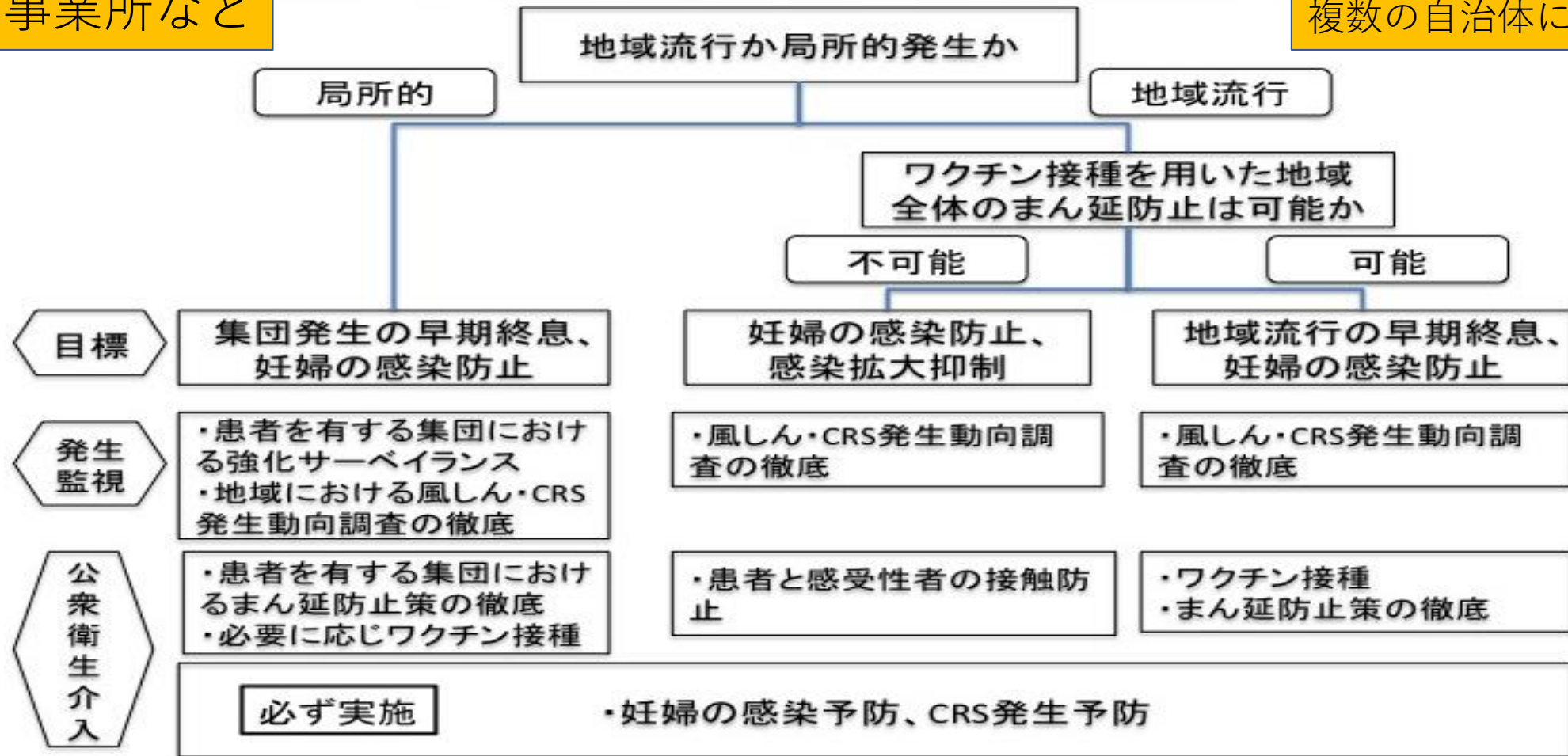
★麻疹との相違点★
感染期間が長い（発疹のでる1週間まえから発疹がでたあと1週間くらい）
非典型例・不顕性感染が多い



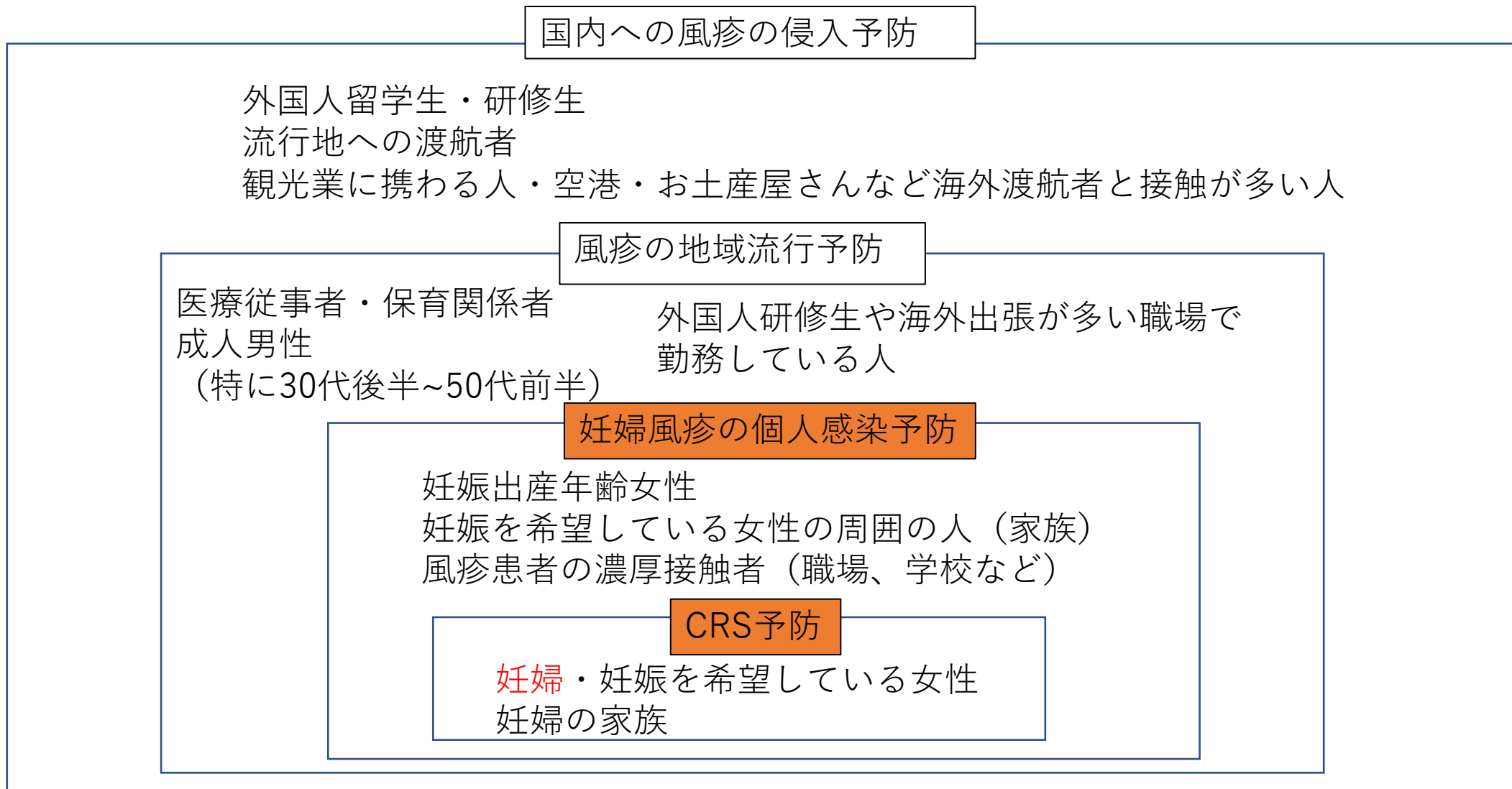
風疹発生状況に応じた対策の優先目標と方針

職場・事業所など

疫学的リンクが追えない
複数の自治体に広がるなど



限られたマンパワー・ワクチンなど制限下での風疹対策は…？



※赤字ーワクチン接種禁忌

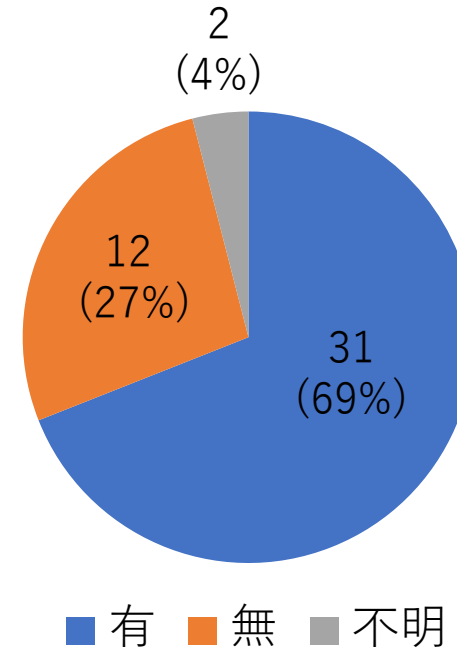
CRS児の母親の背景情報 (n=45)

妊娠中の 風疹様症状**出現歴

**風疹様症状 (発熱、発疹、頸部リンパ節腫脹)

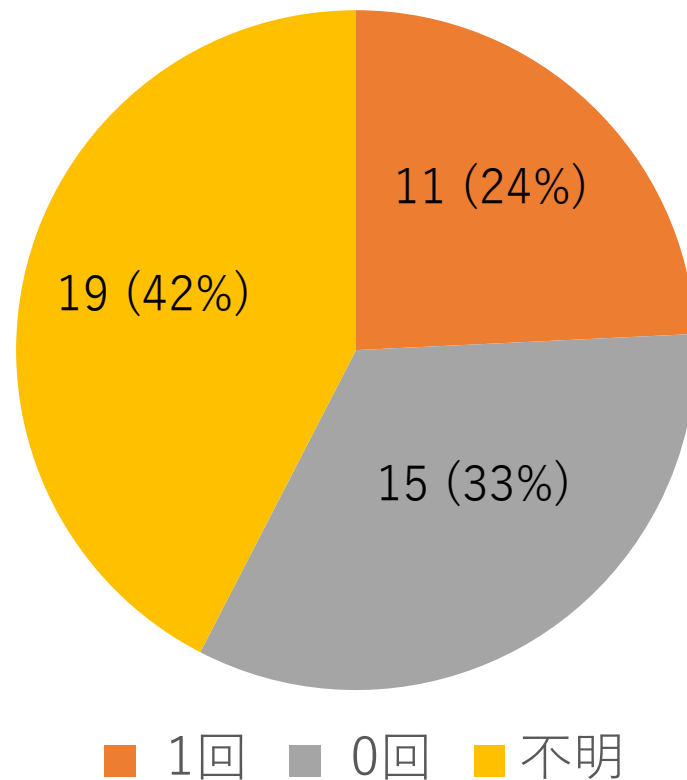
	中央値	(範囲)
年齢* (歳)	25	(15-42)

*不明の1例を除く (n=44)



約3割は不顕性感染の母から出生

CRS児母親の風疹含有ワクチン接種歴 (n=45)



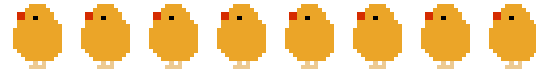
2回接種歴のある母親からの出生なし
1回接種歴のある母親からの出生は24%を占める

まとめ

- サーベイランスの結果から風疹の流行の兆しが認められる
- 2013/14の流行前と疫学的に（感染症流行予測調査の結果も含め）大きな変わりがない
- 風疹発生時対応ガイドラインではCRSの発生 **予防** を最大の目標とし、有効かつ現実的な対応を記している

謝辞

発生動向調査・検査・対応に関係された各自治体の保健所、衛生研究所等の関係者皆様、関係医療機関の皆様



ご清聴ありがとうございました。



National Institute of Infectious Diseases
Infectious Disease Surveillance Center

